

新編水滸畫傳

六編

三



875
533

新編水滸畫傳卷之五拾三

東武

高井蘭小翁

譯編

明治三十二年
十月十日
臘末



○宋江が兵小京城と歩
時梁中書ハ兵馬初監大刀步遊日く天王李成は友人を
商議成る。梁山泊の宋江がとて得て多と怖れ一六天王李成歩
笑くいも。梁山泊の潘徽教子万有とり共忍るに足は相公何ぞ必
も神思と勞し申に及ん。宋不又うして多年縁と食。未ご寸功もあ
さるに。幸ひは田人ると僅城介小疎と列ね。枝く城と迎へて一戦と勵
もん。彼若山疎と離て遠くは而に及ぶ。ば。定めて軍もも痛く。宋一
是と生提て。上ハ小家傳孫の恩と報ト。下を平生學ぶ。不の志と伸
肝胆と碎て患と除く。だ。梁中書是と啖て。大不候び多く。金帛を

あつて友人の大將と賞しりらばおれ齊しくこれと謝して退きり。翌日李
成大少の友軍を集めて、陣後區々なる如く、小使より一人の猛將を遣はる。
威風凛々としてお貌堂々、これ劉姓の索名、超、彈名と名を呼ぶ。今梁山泊の城、宋
云て、勇夫不齒の勇士、李成を遣はして、大に責む。今梁山泊の城、宋
に近くを奪へば、我は小系を攻んと測る。汝は先を遣はして、城を
三十里南に陣せしめ、我は汝より大軍を率してお出せしと命とりらば。
索超は是を飲養し、次の日、李成を引いて、三十里の外にお出せ。飛虎峪と云地
小陳と望むに、列子なる翌日、李成も又云を率して、三十里外にお出せ。
槐樹坡と云地、小陳と嚴密に下し、四方に柵を設け、劍戟を建並べ、三
面に陥坑を掘り、軍小欲とせり。汝軍勢力を振せ、心を固くし、汝の
心と汝の心と、去後、小陳は汝より大係載宗、盧員外、石秀共に生擒れり。

とて、夢て心中、小使乃先我一つの計と施して、梁山書と詔し、彼友人が
斬罪と替く、延引のしめ、その内、汝と宋公明に訴へ、汝は汝とせ
も救えんものとして、多く、吾名の書簡と修へ、小系の城中、城介に持せ。
遂に梁山泊に、飯て、盧員外、石秀が、汝を、一く、汝細に、汝り、汝れを、宋公明
と、夢て、汝と、憂へ、劉姓、大將を、集めて、汝と、向に、我、吳軍師と、汝、小
好意と、汝と、盧員外と、山陳に、留んと、欲し。今日、却て、盧員外、小禍を
命と、救えんや。汝、汝り、良と、計わ、ば、おと、これと、示し、又と、未と、云、早
に、軍師、具用、せし、出て、云、宋君、先、憂と、省き、ぬ、宋一つの計と、執し、
友人が、性命と、救ひ、討、文、小系、城の、玄、橋と、奪ひ、ぬ、て、山陳の、軍、系に、備へ
べし。幸ひ、明日、ハ、吾、目、する、に、汝、守の、豪傑と、分、山陳と、ち、し、め、宋君と

後に其の豪傑を引て小京城を攻べし。宋江は云々を修後し。刑斐宣
命して軍を催さ。明のいふく出陣せんぞと強定し。る。うらぬに
旋風李逵。大奮勢に鳴り云らる。我二つの斧久しく。睨あてらるに
いふ。百の人の借の。速に小京城を攻破りて。友人の姓命を救ひ。又
彼梁中書が旗を削落し。於此滌婦賈氏。弟に奸夫李固は。友人と
とも。すくすくに破て。我二つの斧を。何の不可なる。と云ふ。んとて。
躍起り。及びぬ。宋江は。最猛き。勇夫と。り。と。其。小京城。の
城と。等しく。い。ん。や。梁中書。の。蔡太師。が。壻。といひ。討。更。下。の。大
約に。李逵。李成。と。て。友人の。勇士。あり。必ず。撃。つ。と。李逵。是
と。呼。び。大。小。呼。り。梁中書。が。募。下。に。幾。子。の。猛。將。あり。といふ。我。の。て。是
と。忍。れ。ぬ。素。悉。務。利。と。い。ふ。ん。ば。撃。て。再。び。山。陣。に。回。る。と。飛。く。は。宋。江。に。又

百の云を借し。又とぞり。其用が云。汝果して。弛向んと。我。百の
と。過。に。与。て。先。後。と。せん。明日。山。と。あり。と。遂。に。商。嶽。を。定。め。り。
以。時。秋。の。末。冬。の。初。の。天。氣。あり。人。の。勅。も。易。う。き。相。先。陣。の。大。將
は。旋。風。李。逵。百。の。云。と。飲。も。第。二。陣。の。大。將。は。張。既。解。既。双。尾。蝎
解。宝。毛。沢。星。孔。明。独。火。尾。孔。亮。一。子。の。云。と。飲。也。第。三。陣。の。大。將
一。丈。者。扈。三。娘。副。將。母。秋。又。孫。二。娘。母。大。典。顧。大。嫂。一。子。の。云。と。飲
也。第。四。陣。の。大。將。は。撲。天。鵬。李。應。副。將。は。九。文。竜。史。を。小。尉。遲。孫。新
一。子。の。云。と。飲。す。中。軍。の。大。將。は。宋。江。其。用。兼。小。温。侯。呂。方。賽。仁。を
郭。盛。病。尉。遲。孫。立。法。三。山。美。佐。以。は。將。お。後。ふ。前。軍。の。大。將。は。霹。靂。火
秦。明。副。將。は。百。勝。將。韓。滔。天。目。將。彭。玘。後。軍。の。大。將。は。豹。子。林。冲。副
將。は。跌。筈。仙。子。麟。火。眼。狻。猊。鄧。飛。左。軍。の。大。將。は。双。鞭。呼。延。灼。副

黒旋風先陣にて
北京城を伐



将ハ摩雲金翅歐鵬徐毛虎燕順右軍の大將ハ小李廣范榮副將ハ
跳洞虎陈達白花蛇揚玄并小夷天雷凌振と帯しし石炮とありし
玄粉の運送と嘗大將は神妙大保戴宗と定めりり已おして
綱り一六所日法軍山を下てを奔其竹の既既ハ副軍師公孫勝を
初しと危皆山降とありり相お承の大將索超ハ飛虎峪小降ありて
互乃が宋江が人をもややくありぬとゆいふ子速槐樹坡の降に人
を強て李成小將と報し李成これとて使志と城中に留し以事と梁
中書一物ハ聖日李成又三軍と統しし索超が降在にありり
索超自ら李成と迎へて戦のたと強定し一夜ハ文の時分法軍と
引て強お壺に度家瞳と云れ小降勝と列ね一万又子の云と前後
右に依ハ李成索超嚴に披掛し降のつ下にると勒ハ遙対面をありし

又百餘人の云去烟を立て馳来る李成これとて云小下知しうりん
各弓矢と振り鎗刀と舞し降をふをとお梁山泊の人ハ度家瞳の
影にむて降を對し軍互に喊の起し合をて後梁山泊の降中
より先降の大將旋風李達とと躍せ斧を揮て降をに砲出恰も
響のどく吼て大者少小ゆりり我を是梁山泊の豪傑更旋風
李達と云ふは先降の大將を慕りて尚先りんは小京小勇士
わが子あく出て勝負と交せし李成これとて索超と云小大可笑し
山泊の豪傑ホと云ふ京氏のどれ田夫野人の事ハ我自ら是と活捉
何のそ難きとめんと云れん索超歩笑て云彼降の城を殺さん
於監自らと下しぬんハ大不可之何ぞ難と割に半刀と用んや
先降の小命とて捉し一又一降めりり小王定と云勇於百降誘と

引て斬てお壺に李逵とるんで突あする。李逵驚く探て殺ひらる。いこうる所存みや。遂小引回して奔る。索超これと見くお續て馳出。一向一里許追行し。処小山坡の裏辺に金鼓の響きて。若干の人は近。有る。たえ解脫孔亮あり。右孔明解室あり。各又百の人は引。我ど細けし。索超これと見て。驚るを勒て叩りらる。李成官といく。是へん。索超と捉へる。索超が今坡の辺まで追行し。伏を起て。たふよりゆけ。我ひし。由急先を引て。叩りぬ。李成が云らる。の。城幾子万有ると云。恐るに足。我自是と追拂ちんと。云を引て。庾家村の辺まで追来りらる。又一彪の款を攻あ。尚先小女大将。三騎響と並。中。小。八。彪。三。娘。あり。右小願大嫂あり。右小孫二娘あり。總て一子竹の軍と引て。勢ひ猛くぞ見えらる。李成心中小冷笑ひ。

別ち索超に對して云らる。足下を云と奔して迎へ。我ひは。我を又と。と分て。は。方。の。城。を。と。活。捉。ん。と。已。に。三。軍。を。分。ら。れ。ば。索。超。は。人。馬。を。引。て。突。て。如。手。中。の。斧。を。揮。り。一。丈。を。以。斬。て。鬼。一。丈。青。敵。て。我。に。る。と。回。し。て。山。の。背。後。に。引。退。く。以。時。已。に。李。成。八。人。を。分。て。は。方。小。馳。射。り。小。敵。を。追。ふ。如。此。知。ら。喊。の。響。起。り。一。彪。の。軍。を。突。あ。る。李。成。ん。小。孩。を。急。に。は。千。五。里。退。て。庾。家。村。に。入。ん。と。せ。し。に。梁。山。泊。の。軍。勢。驚。く。近。く。追。あ。り。右。小。解。脫。孔。亮。が。人。を。馳。か。右。小。孔。明。解。室。が。軍。を。突。お。喊。を。叫。んで。攻。あ。る。に。三人の女大おも。何。と。後。に。馳。く。追。あ。り。三。面。より。夾。ん。ど。攻。し。る。李。成。が。人。を。大。小。孔。を。は。面。八。方。に。放。ち。し。右。小。孫。二。娘。小。引。あ。ん。と。せ。し。如。此。更。旋。風。李。逵。尚。先。に。進。ん。で。及。て。遮。り。一人も漏さ。と。二。ツ。の。斧。を。巻。て。散。ぐ。に。吹。し。く。友。軍。い。く。潰。え。れる。李。

成索詔自將と交へて死戦とあり。只一ツの條と殺害と。這く本陣に
逃入り。宋に將軍を遂に一隊と歩破り響く陣を列ねて休息に。扱
李成索詔は去付多付られ。慌忙之城中に人を強て梁中書不効と
若れれば梁中書不効を遂に去を去て我を助けしむ。步速已不城介
歩出らば李成お迎へて陣中不入我ひ負うる勇一く洋に折し架
歩速お笑て云。疥癬の病と受ふる小者くさ。軍統の軍。何ぞ憂るに足ん
我明ら彼を退けんと候を定め。去宵に三軍に號令と傳へ。只小合させ
不更に披掛て曉に一戦と紐じしと觸しし。依軍流皆用えと
洞へ遂に曉と候て。や。庾家疇の辺に歩むぬ。宋に人がも日く以辺小
歩あり。支軍已に對陣に。大刀歩速ハ依軍と嚴に候へ。歩響響く放
陣御を射住り。宋に將軍中より。釋憲火秦明。尚先にををわく。大

者勢に鳴り。小系の城。我軍に敵一性命と推んより。速小盧
員介不秀。友人と還して。淫婦奸夫。友人と絆め。我肯て汝
と候さん。萬一強て戦ふとわく。立処に城と攻破り。城中の人民上下
そく殺す。歩速これと夢て。大小響り。飛うる被活。捉と鳴り。るに
表先踏索詔。去と去。証か。去。小。鳴て。云。秦明。汝ハ。毛。多。秦。明。廷。の
孫と食。何由。多。家。小。持。て。梁。山。泊。小。入。り。を。我。今。汝。を。活。救。せ。候。と
削り骨と抜へ。と。大小。懸に。罵り。られ。秦。明。これ。と。夢。て。去。と。志。り。
狼牙棒と巻て。索詔に。歩て。る。索詔。去。を。あて。これ。と。迎へ。扱。將
と交へて。雌雄。争ひ。戦。已に。二十。條。合。小。小。れ。せ。猪。負。更。に。分。と。さ。り。知。小
百。務。折。韓。滔。弓。矢。搭。へ。て。能。引。て。放。ち。られ。む。を。索。詔。が。た。の。猪。小
中。り。索。詔。大。小。響。り。さ。さ。る。と。引。回。し。本。陣。小。走。入。宋。に。は。時。報。を

揚て招きし。三軍一齊に喊き叫んで攻なり。友軍を散ぐ。又
 撃し。屍は横とえ。血は流れて河を成ぬ。既して宋江が
 軍も八庚家時とて。槐樹坡の陣を奪ひたり。は夜。呼連の敵軍は收
 めて。飛虎峪の疎小屯し。去の存亡を計る。約莫三ヶつて付せり。
 宋江は槐樹坡の疎に屯し。軍師呉用が云。友軍を懼怕て
 在べき。は陣に棄して。追撃すべし。若し時を鬆めた。恐らく。敵勇
 棄を養つ。再び。陣に難く。ん。宋江は。呼連の言可あり
 とて。を救猪濟とる。程を在せ。は。小分。壘に。城下と。辱んで。去る。
 は。時。呼連は。法。法と。集て。呼連。區く。あり。は。敵。又。去る。と。報
 り。は。呼連。去る。不。地。か。辱。ん。東山の上。火把。教。千。揮。照。し。也。も
 山も。遍く。を。置。り。も。明。ら。る。之。呼連。去。と。引。て。迎。へ。戦。え。ん。と。せ。し。後。

山の方小。又一彪の軍を推する。は。の。大。約。八。小。李。廣。花。榮。は。副
 將。へ。陳。達。揚。喜。へ。花。榮。を。下。知。して。急。に。攻。せ。し。呼連。を
 拱。に。及。び。去。死。率。して。引。回。す。又。西山の上。小。教。千。の。火。抱。を。揮。照。し。
 高。先。小。教。騎。の。大。約。跳。來。る。呼。連。は。呼。連。副。將。の。敵。膽。燕。吹。亦。し。が。
 緊。く。鼓。を。敲。て。攻。勢。し。り。又。後。の。方。に。喊。の。勢。大。小。奔。り。霹。靂。火。秦
 明。景。に。韓。滔。彭。玘。力。を。併。せ。去。る。呼連。が。軍。を。前後。左右。に。敵。を
 う。け。戦。す。して。奔。を。以。て。前。面。に。又。火。の。光。晃。耀。と。して。若。干。の。去。お。批。
 して。は。の。大。約。八。夷。天。雷。凌。振。り。り。り。が。小。分。より。拈。て。は。知。不。ぬ。り
 と。顧。石。炮。を。放。ら。り。呼連。益。作。天。一。三。軍。と。せ。不。路。と。求。り。て。走。り
 仍。知。不。ぬ。火。光。の。内。より。豹。子。林。冲。斬。て。也。副。將。鄧。飛。を。鱗。ホ。と。ら。の。に
 敵。の。故。り。拈。と。截。住。む。は。方。の。人。を。攻。鼓。を。亦。く。烈。火。の。下。に。競。ひ。あ。り

一六友軍大不札れく逃走す。時遠力を揮て逃れぬに幸い李成小
 遇りんが致して去せ一知に合せ且戦ひ且走り。漸曉比小城下に及びり。

梁中書ハ以消息を察して。魂を落し獲て冷し。慌て壯きまを引て
 歩如遂に收軍を迎へて共に城内に引退き。牢く城口を塞して出さ
 り。翌日宋江軍も西子の門に推考て陣を堅壘に列ね城を攻る。こと
 周火くも意有り。梁中書ハ城中に在法を集め。いろいろ計
 を考て城を退んやと。伴儀終く一方をくり之時小李成をく出さ
 云る。城を去波で圍で去意有り。眉を皺せ小札をり。若延引しぬ
 心。恐くハ限のしん。唯急に書管を修へて使をたに上せ軍の次
 第一くは蔡太師の方に告進せ。早く帝へ奏せめ。せて援去の沙流小
 及らん。如べり。且又文書を隣國小寄して救ひせ亦め。其上大各

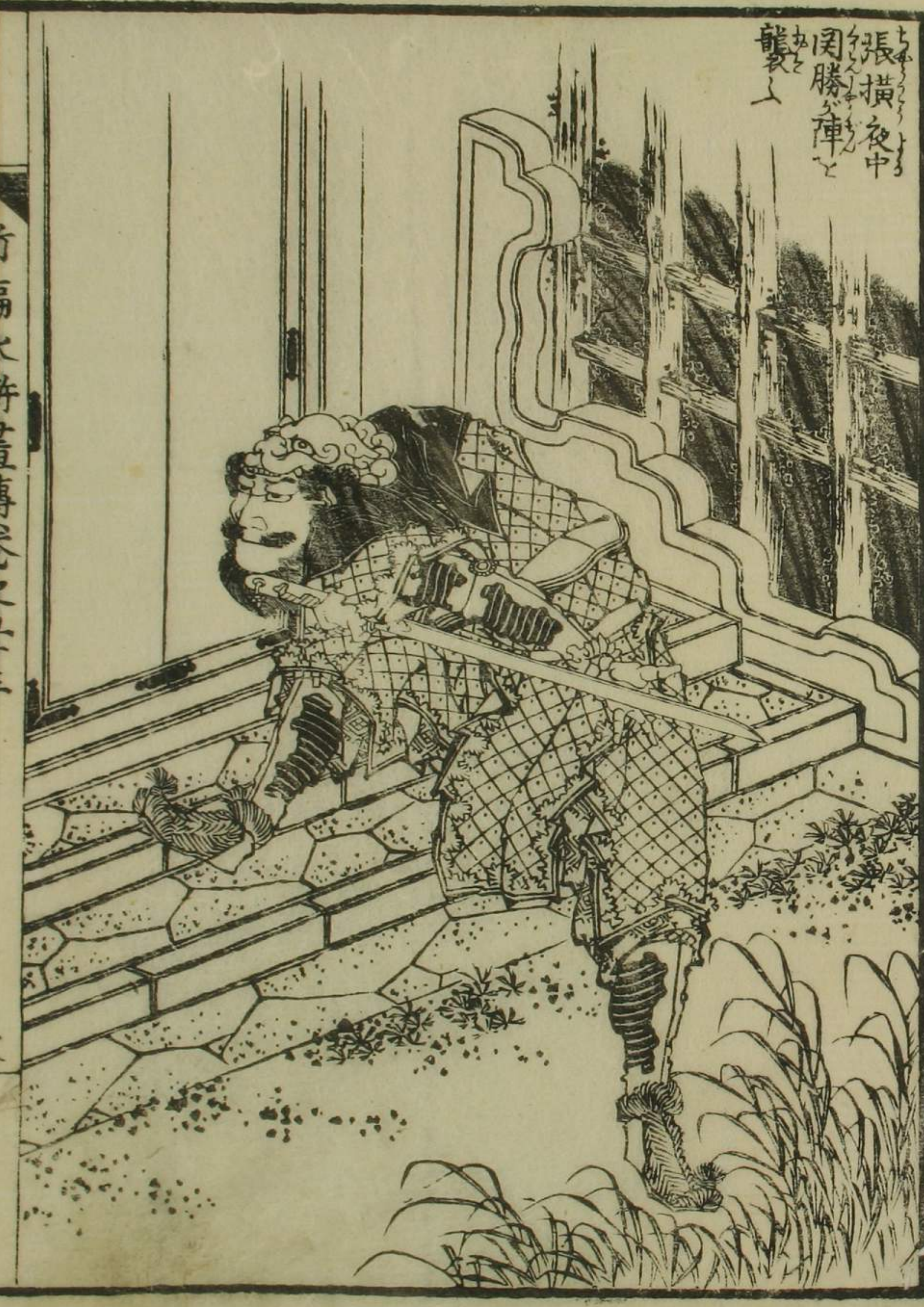
府の去民らと誼催して城中小籠心と向うしかと。恨せ城郭と
 ちり。榴木炮石灰純金汁ホを備へて昼夜急ぐ。防む方小保て
 云事ありんと。恐れ入て中り。梁中書は去と。嘆て書管を修んハ
 いと易りれども。誰とと。誰と。可なりんやと。未だ云も早く。王定を
 出て云。柔めて。詭系し。やまん。所日書管を飲し。二人の軍と
 後へ暗小城中心。馳出。去らに。去。と。急。なり。扱。宋。江。の。去。と。分。て。城
 の。東。西。小。三。面。に。陣。と。列。し。只。南。門。と。の。圍。す。し。て。毎。日。戦。と。挑。む。少
 違。事。成。ハ。城。外。小。と。戦。ひ。し。る。後。に。一。遭。も。勝。と。負。と。及。り。り。り。索。超。ハ
 又。箭。痕。未。だ。瘡。ざ。り。し。由。急。兵。家。小。却。て。療。治。小。暇。あ。り。り。り。

○関勝激しく梁山泊を取んとす。

王定は。於て三騎。東京に。送り。先。蔡。太。師。小。將。湯。一。書。管。

城望しるに蔡老師と被懐して大子警るに別軍の起りて同く
 王定保で盧俊義がとて洋に海へて今宋江と成して城の三面
 と圍之威勢浩大にして欲するに能く度家睡槐樹坡兗虎峪ホの三
 陣に奪れ城を攻ると烈火のてく落城をくるまると見えへいと後り
 する蔡老師と被懐して汝巴にを後と来と鞅するの疲わらん先報
 誤小入て歇め尚明日俾候せんと作せられ王定保をひてやらん少系
 の危さしては標印のてく小してを破れ旦夕小を備城を落されまば
 河水の那縣に於て来ふべし破くハ片時もあく救ひのをを差下し
 突と最難ふ若て鎮誤に成りし蔡老師は日極密の友と信りしに
 極密使童費小云人の太尉と引て何候せり太師蔡老とれと迎て
 面し別少系の危さとして若て城と退ん計を成しければ危皆これと

突て面と観合せ敵る心中に警るさぬく知小一ハの大ぬすむは別
 衙門の防衛示使宣賛と云えうしてあつとまると信りし人分の長
 ハ尺どりうして武藝法人小務なり昔日王府小在て郡る人と信り
 由志醜那ると彈名すか豪傑の士なり一ハ老つ立身もあつと知れ
 童費と不和なる由今小確くと一と兵る保義の職と成りしのとて
 蔡太師と見えて同りし汝巴に計わりや宣賛若て云来尚初なる小
 わり一対一人の朋友なりが関お單の嫡孫うして對ハ関名ハ務と号
 以先祖冥雲長の相貌小異なりしと想よく去龍偃月刀と使ふ由志
 人にも大刀関務と云懐せり今ハ只蒲東郡小於て巡檢の職と成りし
 して人の下小わりは人知さし時より信りて云書と懐て源く武藝小使
 方夫不尚の勇あり若相公慙歎小彼と信りて大ねとましかりし梁山



泊を被て城後を滅し、必を保ち民を安せん事最易うべし。然く相公
 礼を厚し、文書を修へ、又燕系を以て大に賑ひ、刻ち宣贊を使者
 として文書を持し、め、連夜に蒲東小吏一、冥務を東京に傳へしめり。
 相宣贊の文書で候して、小吏不日に蒲東巡檢司の前に入り、書を
 ありぬ。日冥務の部思文と云ふを私宅小遣へ、友人果に古今與亡の
 事、痛く居るに、東京より使者即ぬと告られ、冥務と云ふ
 をり、却て廳上に迎へ、一札已に早り、冥務先問てい、我は下こ
 互にお疎して、久く消息も無き、我つ子にこれをおひらる。只
 今、今日何等の事ありて、自ら來候と、おひめ、や、宣贊答て云
 今、梁山泊の強賊、小吏を攻て、危急なる由、名、素蒙、太師の前まで、申さ
 の才徳で、吹嘘し、城を撃ち、保つ計策ありと告られ、素蒙、太師早速

奏、時を遂、貴公と、幼小、徒て、商榷、之として、懇、歎、の、文、書、を、賜、り、ら、に。
 必、に、粹、し、め、お、と、る、れ、と、具、さ、た、け、り、一、は、冥、務、を、以、て、ま、ご、を、賑、は、に
 堪、ざ、り、さ、び、時、部、思、文、も、一、症、小、吏、乃、ん、冥、務、又、宣、贊、不、對、し、て、云、比、人、の
 是、姓、八、部、名、の、思、文、と、申、て、素、蒙、の、兄、弟、の、盟、を、誓、ひ、し、る、八、部、の、を、交、わ、り、
 昔、日、比、人、の、母、妾、に、井、本、軒、の、胎、不、入、と、申、て、比、人、を、殺、せ、し、ま、さ、し、う、人
 皆、是、と、知、り、て、井、本、軒、部、思、文、と、稱、し、む、強、勇、り、て、十、八、般、の、衣、裝、
 一、つ、と、て、襲、せ、ば、と、云、は、素、蒙、の、太、師、の、幕、に、夜、ぞ、ら、る、ら、ん、比、部、思、文
 ぞ、も、共、に、月、住、し、各、切、を、建、以、て、必、に、救、ひ、民、を、救、ふ、可、う、と、宣、贊、こ、れ
 と、以、て、益、賑、ひ、お、く、お、ま、り、と、懼、懼、し、し、る、冥、務、と、云、は、旅、の、精、を
 お、酒、へ、即、ち、部、思、文、と、申、し、冥、初、の、精、を、子、作、人、と、率、し、る、物、の、具、刀
 餘、ホ、と、持、し、め、遂、小、宣、贊、に、隨、て、奔、走、し、ま、り、東京、城、小、入、り、素、蒙、太、師、が

門希小直り。宣贊門に軍士に就て蔡公師小直りと告知りし。遂小直人の志を奪て蔡公の前に入り。蔡公に見えし。蔡公は實も蔡公夫不為の勇ある。豪傑と見え。身は長八尺。六寸。手に餘り。三極の鬚細く。て長く。岳。眉。髯。小入。て。風。眼。天。小。胡。ひ。面。ハ。棗。を。穿。ひ。て。骨。ハ。硃。を。塗。り。に。似。たり。蔡。公。師。初。會。て。云。將。軍。の。妻。妻。ハ。多。少。也。實。備。善。て。未。今。年。三。十。有。二。年。有。り。蔡。公。師。又。云。今。梁。山。泊。の。賊。は。宋。江。大。軍。を。以。て。小。東。城。を。圍。む。今。不。し。て。放。れ。且。夕。有。ん。と。以。將。軍。國。家。の。為。に。良。計。を。施。し。小。東。の。圍。を。解。ひ。ま。ん。や。實。備。善。く。云。未。も。已。に。彼。賊。ホ。が。招。撫。と。を。言。及。ぶ。り。彼。今。山。跡。を。離。れ。て。去。り。小。東。に。在。る。自。ら。滅。亡。せ。し。理。之。未。也。今。小。東。に。向。て。戦。ふ。を。掃。利。せ。ば。汝。等。親。方。亦。亦。付。者。多。く。し。て。今。小。東。を。

亡。此。の。計。に。め。り。未。先。數。万。の。兵。を。假。て。以。て。梁。山。泊。を。攻。め。其。後。精。兵。を。以。て。小。東。の。城。を。攻。め。只。一。鼓。小。東。は。平。ら。せ。し。蔡。公。師。は。以。て。以。て。收。め。て。魏。と。圍。ん。で。趙。を。救。ふ。の。計。を。と。り。時。時。樞。密。院。の。友。と。會。ひ。て。山。東。河。水。の。糧。を。一。万。石。子。を。糧。を。郝。恩。文。と。先。發。し。て。宣。贊。と。後。軍。と。関。羽。と。中。軍。と。し。て。以。て。兵。將。揮。使。の。職。を。授。け。又。步。軍。大。尉。に。玄。梅。運。送。資。料。の。事。を。掌。せ。て。救。急。を。以。て。日。實。猪。藜。を。師。と。稱。し。て。未。東。と。亦。出。一。万。石。子。の。人。を。三。千。小。分。け。て。以。て。梁。山。泊。へ。向。せ。し。又。宋。江。は。法。お。し。修。小。每。日。小。東。城。を。攻。め。し。以。て。未。も。未。也。城。を。落。し。て。一。面。を。圍。んで。卒。く。城。を。連。ね。り。攻。む。李。成。を。再。び。城。を。出。て。戦。ふ。も。及。ば。只。派。つ。て。受。け。取。る。城。を。攻。む。の。事。宋。江。は。城。の。落。ぶ。る。を。見。て。心。中。に。替。回。し。て。夜。槍。と。兼。て。九。天。玄。女。と。り。

新編水滸傳卷之五

援りし天書と披覽して互らるが忽ちして表を戴宗と山陳に問いて
 久しこれをも消息ありけ又城を圍むと已に月日を経るれを諸方より
 獲えの事ぬ必まきいりるがやと精疑ひせしめし。林思と学し心
 益あんぜざり。一軍師兵用と請て去に商議せまりるに兵用之
 我軍城を圍むと久しと之を去ど何方よりも救えぬに城中の款も
 まさ出て我に只城を堅むにちして動靜と窺ふいいうれも縁故の
 東京の蔡老師ハ梁中書ウ丈人なるに請の圍れるとは彼を何とや救の
 ことと訊く。蔡老師ハ我の消息わらざるハ東京に良將ありて魏を
 圍んで趙を救ふの計と申ひ。先は城を救ふに。て亦不梁山泊と攻れ
 ん。是事もやいん。是ハ東京必死の乃理られ。宋君須く三思を加へ
 め人とヤリリ

○呼延灼夜月関勝を誦は

宋江が陳中へ外甥大保戴宗唯今刻急せりと頼られ。宋江も急小迎へ
 て對面し。乃れ小戴宗告て。東京の蔡老師関將軍の子孫。蒲東
 郡の大刀関勝と。英雄の良將と慕。一万五子の精を。与へ梁山泊。下
 向ぬ。多。陳中の法政。評議。結くと。て。去。一。變。小。能。を。ば。頼。く。ハ。多。く
 問りぬ。ひ。て。山。陳。の。難。を。救。ひ。ぬ。我。が。孫。が。ず。ん。ば。誤。り。や。わ。ん。吳。用。を。を
 今も宋君と請て。此事不及り。猶も此の。と。又。と。慌。と。説
 四るべし。今宵先歩軍斗と引ぬ。二子の人多と多。飛虎峪のた
 右に依るべし。城中の友軍我々の引と見。必要城と出て。逃蒐へ。これ
 易か。くの。これ。伏。將。を。没。け。ず。ん。ば。我。が。大。小。亂。る。宋。江。は。急。小。頼。一
 頼り。小。李。慶。花。榮。に。又。百。の。名。將。と。与。へ。て。飛。虎。峪。の。た。不。理。伏。を。豹。子

改林冲も旧く八百の兵とへ飛虎峪の右に埋伏させ。又呼延灼
 小二十又誘の軍と与へ奔に凌振と後へ一り城より十石又里西伏
 並に城の歩出さしん不にお客の砲と放させ。親方の伏兵に消息
 と知しむ。扱軍の兵を夜暗に歩させ。後軍の兵もお続
 て馳お翌日巳の刻にありて。是く皆陣と拂て城下と離し六城を
 ちこれとて追くに梁中書が廳ふあり。梁山泊の軍をいりる
 事出来らるや。是く皆陣と扱て馳回りみそと作へる。梁中書これ
 と知て呼延李成小谷と官し。六城をいり。彼今圍と解く。攻
 陣す。必統東京の救を。並以梁山泊へ誘らる。人あは勢に。梁
 て追付せむ。宋江と生捉んと最易く平。と云る。知れ。東京の使文
 書と扱て馳来り。今東京の救を。並以梁山泊に誘らる。宋江とて云

と引回さし。是く城を治して。立妙は赤丸と若し。公梁中
 書これとて。大不恥び。呼延李成小谷とを。与へ。東面の支隊より
 追し。めり。宋江は。時城を。治る。と見し。三軍と。催促し。息も。終に
 走り。呼延李成。喊さ。叫で。砲を。遂に。飛虎峪の。辺に。ありし
 如に。背後の。方に。砲を。射り。響し。呼延李成。大不。謙さ。若に。退
 ん。として。軍を。退し。る。たの。方より。小李。廣。花。榮。突。出。右の。方
 豹子。改。林。冲。討。て。出。各。又。百の。軍。を。引。て。五。辺。より。夾。て。攻。ら。ん。バ。呼
 延。李。成。款の。計。に。中。て。子。と。措。に。及。む。に。急。に。引。退。さん。と。せ。し。知。し
 呼。延。灼。一。彪の。兵。を。引。て。三。面。より。包。圍。ん。で。歩。ら。ん。呼。延。灼
 急。に。大。不。恥。れ。這。く。城。中。に。逃。入。て。城。門。を。突。再。び。出。て。追。ぎ。り。り。り。
 宋江。が。人。を。ハ。次第。に。依。て。慢。くと。引。退。さ。し。梁山。泊。に。近。付。し。知。れ。

醜郡を宣賛路と探して我を挑いざなへ。宋江先三軍を收とめて陳を九
 暗に便つひと小誘こまり。弛山陳に告知せしむ。小京の親方厚く引ひきこ
 逐およひに辺に到いたり。水陸の軍を合あはせしむ。我を助たすけしむ。
 扱水陳の大船火見強横あつ。全身腹裏白跳強横あつと高旗たかし。い
 我を兄弟山陳に上あり。以来後援ごえんすべき功を建たて。他人小功を
 奪うばれぬ。ハ多おほく心こころし。さ取とりて。さいひ。び。大おほく実務じつむと三子さんに分わけて我が
 山陳を攻せむるべし。我を兄弟先登せんとうして敵陳を却おひ。彼実務を擒とらへし
 て大功を立たす。向後法豪傑の赤あかくも。肩かたを板いたき。臂うでを強つよべし。知しるべ
 汝なんの思おもふ。張ちやう横ごうが。我を友人ゆうじんの比ひび。水陸すいりくをもち。のそりして。人
 数をかず。解とく。先登せんとうして。隈かまり。バ。及および。款味くわい方に笑わらふ。先登せんとうし
 便機べんきを待まちて。計けいを休やすみ。張ちやう横ごうを待まちて。云いふ。ハ。汝なんの如ごとく。ん。ハ。何

れの日ひ。ふ。能よく大功を建たす。連つん。や。汝なんの思おもふ。我われハ。今いま。背せ負おり。弛
 て大功を立たす。登のぼり。と。遠とほ近ちかに。名なを。せ。と。て。已やに。名なを。使つかし。ら。れ。張ちやう横ごうを。云
 竭つく。一ひと。再また。之これ。を。練あら。せ。張ちやう横ごうを。以もて。耳みみも。穿く入いら。せ。夜よ又また。十じ餘よ
 艘ふねの。小こ船ねを。遣つかへ。一ひと。毎ごとく。小こ船ねを。遣つかへ。又また。人ひとの。名なを。一ひと。度たびに。潜ひそか。り。て。蘆葦
 の。内うちに。入いら。り。り。は。時とき。二ふた更じやうの。比ひ。也なり。天あま色いろ。降ふり。し。六む月げつの。光ひかりも。無なし。孫まご權ごんも。
 扱あつ。水みづ陳ちんの。独ひと帳ちやう中ちゆうに。在あり。て。兵へい書しよを。着きて。品あやり。如ごとく。蘆葦あしわの。内うちに。入いら。り。十
 艘ふねの。織オリ船ふねも。有あり。て。辺へに。小こ埋く伏ふくせり。と。若わかり。れ。張ちやう横ごうを。云いふ。と。云いふ。と。答こたへ。と。
 歩あつ。笑わら。盗と賊ぞくの。流ながれ。何なにぞ。道みちも。足たりん。我われ。陳ちんに。一ひと。つ。の。計けいを。施せさん。と。も。早はや速すみ之
 軍ぐん。小こ軍ぐん。令れいを。傳つたへ。て。計けいを。使つかへ。一ひと。めて。云いふ。と。款くわん味み陳ちん中ちゆうに。入いら。り。帳ちやう前ぜん
 より。船ふねを。鳴なさん。以もて。答こたへ。と。定さだめ。方かたより。突つて。款くわん味み陳ちん中ちゆうに。入いら。り。帳ちやう前ぜん
 活か提たいと。命いのち。と。り。法あや軍ぐん。謀まうを。更また。各おの防ぼと。し。使つかへ。云いふ。と。款くわん味み陳ちん中ちゆうに。入いら。り。帳ちやう前ぜん
 待まちて。命いのち。と。り。法あや軍ぐん。謀まうを。更また。各おの防ぼと。し。使つかへ。云いふ。と。款くわん味み陳ちん中ちゆうに。入いら。り。帳ちやう前ぜん



びぬ。船火兒張横ハ二百の水軍を引て。蘆葦の内小菰れ。時分を伺つ
 て。小菰れ。暗ふ。款の本跡小菰れ。入て。帳中とある。るに。燈燭明く
 して。冥猪只。独々書と着て。立。張横大。小ほび。色に。長柄の。旗を
 捲つて。帳中に。捲入んとせし。如。忽ち。傍に。旗の。聲響。喊の。如。乾
 坤。小菰れ。の。勢。ひ。山を。崩。一。川と。翻。ひ。て。張横。を。作。て。一。旗。を
 拖。り。走。り。出。んと。せし。其。方。の。伏。兵。一。度。に。並。び。起。り。散。く。小。撃。し。て。
 張横。が。二。百。の。ま。一。人。も。漏。れ。ず。活。捉。れ。ぬ。張横。ハ。殺。傷。を。奮。て。殺。ひ。り。し。せ。
 其。に。大。勢。に。捲。り。れ。り。を。哀。れ。る。ん。冥猪。これ。と。見。て。大。い。小。怒。り。汝。梁
 山。泊。の。潘。威。何。ぞ。擅。に。我。と。欺。んと。す。や。我。近。く。宋。江。ホ。と。生。捉。て。共
 二。系。に。引。見。ん。先。踏。車。に。入。車。と。命。し。ら。れ。ば。汝。の。友。軍。を。斬。り。張横。が
 拖。り。踏。車。小。入。り。り。る。叔。強。順。の。命。見。が。活。捉。れ。る。と。夢。て。流。く。悲。歎

一。別。院。家。三。兄。才。が。陣。中。に。在。て。二。人。の。志。小。見。え。我。兄。張横。系。が
 諍。と。密。す。して。冥猪。が。跡。と。却。んと。思。り。却。て。冥猪。に。捲。り。れ。ぬ。と。若
 乃。れ。ん。院。小。七。大。小。呼。つ。て。云。我。兄。才。三。人。も。志。お。付。ら。う。と。互
 に。救。ひ。す。く。と。向。く。是。ト。何。ぞ。向。くと。兄。と。捲。り。れ。り。や。あ。これ。と。救。え
 ず。何。の。面目。の。何。う。宋。公。明。に。見。え。さ。り。ん。我。が。密。三。人。自。り。馳。て。
 是。ト。の。兄。張横。と。救。え。ん。小。豈。一。點。も。却。さ。さ。の。う。ん。や。張横。が。云。未。だ
 宋。公。明。の。号。令。を。わ。ら。ふ。小。控。しく。拳。動。せん。ハ。不。可。分。う。ん。院。小。七。が。云。
 宋。公。明。の。号。令。と。結。て。一。く。日。を。過。さ。ば。是。下。の。兄。ハ。遂。に。款。の。手
 に。殺。され。ん。何。ぞ。必。ず。も。号。令。と。結。て。自。り。事。を。得。ん。や。院。小。二
 院。小。又。も。是。と。夢。て。月。ん。し。り。し。張横。三。人。と。結。り。し。て。能。く。し。て。
 遂。に。其。後。小。院。の。所。夜。に。二。の。所。分。水。路。の。大。ね。ども。谷。枝。船。に。登。り。し。

船て一百餘艘一度に漕軍を突務が陣に攻め居る岸の上の方軍をハ
水面に歌船来るやんぞ突務小勃と舟へハ突務が笑て云智
孫より城後木幾子万来るを何ぞおろけに足んやとて別後舟に計て
低きて如ふくと示し於て用意せしむる。別後舟の三兄弟ハ前
あり張帆ハ後小あり。一度に喊の聲と揚て歌の陣中に攻入し知小ハ
旌旗の建並べて唯一人の玄もあざりり。阮家兄弟あつらん張
急に引退んとせし時。帳幕に旗の勢害くと等しく左右より多
あ軍を突おしてハ舟小あつれていくまくに圍まらり。張帆ハ
光系を見て歌一がくや思ひらん先水中に飛入り。三阮兄弟ハ
求て逃るる術水辺よりしうども。敵の軍八面より襲ひあり阮小七が
後れて走り退付於て舟をつら活捉し。阮小二阮小八張帆死と

危うし一船に混江龍李俊童威童猛と引く目トく玄船と漕軍カ
を併せ死を棄て三人の取次を救ひて遠く船と寄て逃りり。友
軍ハ阮小七と擒りて。是又陷車の内に入ぬ。玄船に水軍の
大將ハ山幸と山陰に舟へハ劉唐劉張張と馳て。宋公明ハ
消息報るに。宋江大に驚き突務退ん。いりる計を用んや
と異学究に問られん。異用答て云。明ハ先徳小一戦をなし。其務負
わゆると一覽し。其後別小又計を於すべしと激定し。其船小
攻鼓一齊に鳴りて。歌大勢攻来る。是別後舟の宣贊が云。宋江
法約とらに歩出て宣贊とるん。いりるぬふも張勇の大將と云え
糧束も嚴る威風まら猛し。以時宋江大舟鳴て准りわ。彼活捉と
下知し。いりる小李廣花榮と躍と繪と拵と宣贊小糊る。宣

突も同じく刀が捲くもと陸軍にをぬまぬ遂に海軍交へて。唯雄を
 争ひ戦已に十作合小ありし。知れ花榮の志を回して逃るれば。宣
 賢後不陸て赶来。花榮睡に弓箭と把ておぼへ能操る兵と放
 ちりる。宣賢強者とすておぼへ刀と揮て拂ひし。花榮地よふ。落
 うりり。花榮一の箭中らざるやんと。又二の箭を放ちりる。宣賢
 をやぐも鞭の肉に身を落し。を箭も避る。花榮が弓勢の強
 さを見て。敢て再び退く。遂に本陣とす。引れば。花榮彼が趕さ
 るを見て。急るもと回し。砲あり。宣賢が後心を辱し。又第三の矢
 を放ちり。如に大小雷て甲の上の護心鏡小射る。宣賢を
 驚さし。此さると飛せし。陣中に砲入。人々を馳戦の次。花榮に
 報り。実務是とす。長一丈小。八尺。秘藏の處。小。お。全

身嚴密に披掛て。偃月刀と提。走りに馳て。陣中に及びし。宋に
 け。実務と見らる。威風凛々。相貌堂々として。恰も實雲長の像と
 見らる。とく。呉用とさる。一向。嘆息して。云。敵に稀玉の良將
 あり。若實雲長の子孫。小。わんぱい。んぞ。利の。こと。英雄とせん。やと。
 法。於。小。向。て。誇。獎。り。小。豹。子。改。林。冲。忽。ち。念。往。と。して。云。我。が
 孝。梁。山。泊。に。上。て。より。大小の軍已に六七十。陣。小。及。び。し。と。も。
 未。だ。一。度。も。銳。意。と。折。れ。宋。君。今。日。は。何。由。自。家。の。威。風。と。滅。し。や。ふ
 や。と。て。繪。と。撒。り。る。を。際。せ。陣。前。に。砲。出。し。實。務。已。に。林。冲。を。見。て。大
 小。怒。り。汝。梁。山。泊。の。濠。城。い。う。ん。ぞ。朝廷。に。背。く。友。軍。に。敵。せ。んと。さ。り。や。
 小。あ。く。宋。江。と。出。し。我。と。勝負。と。交。せ。し。め。よ。と。罵。り。し。宋。江。は。飛
 せて。馳。り。利。國。務。と。見。て。恭。し。く。礼。と。さ。し。余。は。是。鄆。城。縣。の。小。吏

宋江の傳ぞ將軍と稱し一多と懸教に云るに實情これと噂く
 汝已にわくのぞくば何ゆゑ又朝廷小背きぬや。宋江若くは朝廷
 明くつたうするゆゑ奸臣乃小遣り。彼佞臣と云ふはして擅に天下
 百姓と害にらん小依て系法豪傑と共小難と避て梁山泊小難城
 一。公天小留て乃と行ふのぞ。毛政も吳公めくは取くハ將軍是と懸
 一。實情大に吼て云天去今これ取らるは汝が罪と據らん也
 尋常新巧を令色とゆゑ我と誰んと欲ふや。汝若くは下て降系
 せずんば忽ち骨と粉ふし。牙と碎くべさぞ。霹靂火秦明これとめて
 大い小怒り。多小狼牙棒と舞ハし。實情小赤て藁。實情これと
 見て哈くと赤笑ひ。畫龍刀と揮てお迎へ。多小林冲功と秦明小
 奪らんとも取ん。急に槍と捲て目とく。實情に搦薙り。三人もと

交へ戦ひ一六款親方目と疾くして見おれ。宋江是とんとて實情を換
 らんとも思ひ。急さ今と噂し。軍と收められ。林冲秦明遂に
 實情と赤て引回し。別ち宋江に對して云らるハ。多。已に實情を
 活捉んとせしに何れ金とる。軍と收められ。宋江が云我をハ
 皆名義とまとするにわづらや。彼らに名強さゆゑ弱と欺ハ。是
 則義士のなき小背く乃理ん。今我實情と見るに。彼に英雄の志
 居るれ我いんぞ是と傷ふに忍びんや。抑且彼が先祖實雲長ハ
 漢の末に天下をとりし時。魏蜀兵に比びるも名譽の義士なり。是
 小よめて今の世にゆると國菩薩と稱れぬ。我りけ人と山賊小は
 速小一位の座と讓て山陣のまゝしめん。林冲秦明これと破て心中
 悦びたり。け日ハ先軍ともと收めて各陣中に引取り。實情ハ独

帳中にまゝ暗小者乃我今日林冲秦明両將小款して已に生提
 りんとせし如に宋江却て令を鳴し軍を收めぬ。いづるもまゝなる
 と。推察に務は列強撲玩小七と引出して同なる。宋江は京鄆城縣
 の小吏なるに汝は何由志心と欲け。陸明も亦阮小七と云。宋公明は山
 東河小舟の地に大名と馳て及時西宋江と稱せし。汝がとこ密い。今
 宋公明の徳義とあうんやと大に呼て誓へり。実務はとやて暫く改
 と依又友人の志と脂車の内に入至る。款は實務益將向に逼て坐外
 安んせし。独深に帳外小朱也。月色天小滿お美地不遍こと見を一向
 嗟嘆のしる如ふ。一人の志來て報る。今轅門の介に一張の大舟來て
 元帥にまゝとんと云る由急。そ姓名と官ひし。能波あてこれと報せし。
 只元帥にまゝとんとと斗蓋は實務が云す。小舟もふそれと誘引せよと

余はらる。彼を命とらけて再び走り出。於てかの大舟と馳て帳前小舟
 ぬ。實務は大舟をみるに何とやん見識とる。後よりし。六州先関と云
 是下の飛るる。そ姓名と報ト。更彼大舟を將軍須らく左衣の
 人と退ける。素一つのことと密談す。實務が云。左衣の志。宋江は我ら
 後の志のつるれ。がしも將る。不なし。若事あふ。速に渡り。又彼大舟が云
 我ら雙鞭將呼延灼の向に朝廷の為小連環軍の計とひて。已
 にあつた。と誠と破りし。是志まは。其用が計に陥され。多く軍を
 討せり。小舟より再び宋江に回ると。故に今也。梁山泊小舟りぬ。將軍
 今朝林冲秦明等のあむた。款して我ひひし。時殆ど危く見え。今
 由。宋江は海く將軍傷んことと怖れ。急小舟を鳴し。軍を收め。ひひ。こ
 宋江は素より飯吹の志なりと。以て。汝の威え。小舟に。して。天を。犯ぬ

新編水滸畫傳卷之五十三

十一

宋江と晴小強定し。天命に従はざれば、擒て生擒す。豹軍に降来
 せんと欲し、豹軍の是と見し。明喚月光の案として、小強より賊
 の隙に突入、林冲ホと生捕り、系路徑と案内し。その大功を立
 べし。心を放け、獲を吐く云々。冥猪はをめて、大小取ひ。取て
 帳中に待て、種々審察し。その時、呼延灼又宋江を系来、忠義を
 以て、自らとす。と見し。己こそは、流賊とす。梁山泊小生とす。は
 友人互に哀愍を催し。半息も疑ふるは、翌日宋江三軍を率ひ、我ひを
 挑り、小冥猪、呼延灼と戦し。云、我今日先以軍に赤願、喚問亦
 計と引きて、林冲らを生捕べし。とて、己に去と引て、赤出。は、呼延灼
 も、何れも、陳希仁を、出ぬ。宋江も、よくも、呼延灼を見て、故、罵
 て云々。ハ、我、汝を、利ひ、る。汝、何、由、昨夜、陳を、思ひ、出て、飲に

降りしや。呼延灼、善てり。山莊の系、何の大幸、做出さん。
 我、系、系、傑の、巻を、ゆる。大丈夫、たるに、豈肯て、汝が、後、に、後、せんやと
 吟笑て、能し。あし。宋江、引、徳之山、黄旗、を出し。闘、ハ、呼延灼
 二、敵と、奉て、お、迎へ。あ、各、勇と、奮て、戦ひ、り。合、戦の、早、次、卷、小
 伴、あり

新編水滸畫傳卷之五拾三

